

東アジアジュニアワークショップ 2013 感想

山下泰幸 京都大学

1. フィールドワークに関して

準備段階では、さすがに訪れる場所が深刻すぎるのではないかと、もっと彼らが訪れたがるような分かりやすい観光地に案内した方がいいのではないかと考えていたが、実際にフィールドワークを終えて見みると、彼らの反応が非常に良かったため成功であったと思っている。というのも、彼らのほとんどが結局は日本滞在の期間を長めにとっており、自分たちの訪れたいような分かりやすい観光地は自分たちで訪れていたからである。今回は結局、それぞれのフィールドワーク先にいらっしゃるスタッフなどの話を安里先生が通訳してくださるとい形が多くなってしまったが、正直われわれの英語力では説明に限界があり、仕方がないのかなという気はしている。ただし学生による学生のためのフィールドワークという点を考えると、理想はわれわれがもっと英語力を鍛えるなり説明をより十分に準備しておく必要があるだろう。

2. ワークショップに関して

全体として大きなトラブルもなく、海外の同じような年齢の学生がどのような研究をしているか、どのような水準であるのか、ということがよくわかる非常に貴重な機会であった。また、少なくとも京都大学の参加者のほとんどにとっては初めての研究発表であり、しかも英語であるということで苦戦はした。しかしながらある程度既に仲良くなった後の学生たちの前ということで、失敗をあまり恐れず大胆に行えるため、はじめての研究発表を経験させる場としてこのワークショップは非常に素晴らしい機会であると思う。私自身は英語力の問題で、私に向けられた質問に全く答えることが出来なかった。英語力の改善が非常に重要な課題であることをあらためて認識することが出来た。他大学の生徒が作成するパワーポイントは、リサーチクエストや研究手段や結果などがきちんと形式的にまとめられており全体として発表の体裁が整っていたのが印象的であり、京都大学の生徒も今後はそのような形式に則ることを意識するべきであると感じた。また、きちんと自分の足で調査を行っているものが多いことも印象的であった。

3. 受け入れ準備などに関して

ホテルの送迎は正直なかなか体力的にしんどかったので、やはり宿泊場所は一箇所にとめてもらうべきだろう。また、初日にもっと積極的に交流をおすすめするための、小グループに分かれての自己紹介タイムなどをもうけて親睦をはかるのいいかもしれない。友人はたくさんできたが、一方で最後までほとんど一切会話しなかった者もいる。また、直前期の準備の負担があまりにもしんどかったため、もっと事前に準備を徹底するかもしくは京都大学側の参加者をより多く集めるべきだったと考えている。バランス的に言えば、韓国・台湾・日本が参加しているのだから、中国からもどこかの大学に参加してもらうべきではないだろうか。今回はベジタリアンが二人いたことで、レストランに訪れるたびにいろいろと彼女らに気を遣わせる思いをしてしまった。今後は事前にベジタリアンメニューがあるかどうか、またそれはどのようなものであるかということ徹底してリサーチし、また、事前にベジタリアンやアレルギーを有しているものがあるかどうかを聞いておく必要があるだろう。また、私は今回のワークショップでホスト校かつ日本人の中で最年長ということもあり、非常に多くの金銭を彼らをもてなすために費やすことになっ

てしまった。個人的に決断をしたのだから後悔はしていないが、もう少し京都大学の予算から彼らをもてなすための食事代なども捻出できればよいのだが、きっと現状では厳しいのだろう。

さて、以上のように細かい改善点がいくらかでもみつかるが、しかしながら全体として今回のワークショップは成功であり、素晴らしいものであった。私個人は、今回のワークショップではかけがえのない素晴らしい体験をすることが出来たと考えている。こんかいまなんださまざまなことは、今後研究を続けていく大きなモチベーションとなっている。このワークショップは、是非今後もずっと続けていくべきであり、学生にとって極めて貴重かつ大きな影響を与えるような機会であると思う。